

問1 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、人体にとっては異物（外来物）であるため、好ましくない反応（副作用）を生じる場合がある。
- b 人体に対して使用されない殺虫剤や検査薬は、人の健康に影響を与えないものと考えられる。
- c 一般用医薬品は、市販後は原則として、その有効性、安全性を確認することはない。
- d 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑かつ多岐に渡るが、そのすべてが解明されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

問2 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較すればリスクは相対的に低いと考えられる。
- b 一般の生活者においては、添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能、効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることがある。
- c 一般用医薬品には、添付文書や製品表示に効能効果、用法用量などの情報が記載されている。
- d 医薬品は、その有用性が認められていないものもあり、使用には保健衛生上のリスクを伴うものであることに注意が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問3 次の記述は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法の条文である。( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお( )の同じ記号には同じ字句が入る。

この法律において「医薬品の副作用」とは、「( a )が適正な( b )に従い適正に使用された場合においてもその( a )により人に発現する( c )」と定義している。

	a	b	c
1	医薬品	使用目的	健康被害
2	医薬品	使用方法	健康被害
3	医療用医薬品	使用方法	健康被害
4	許可医薬品	使用方法	有害な反応
5	許可医薬品	使用目的	有害な反応

問4 医薬品の作用に関する以下の記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお( )の同じ記号には同じ字句が入る。

薬という物質、すなわち薬物が生体の生理機能に影響を与えることを( a )という。通常、医薬品は複数の( a )を併せ持つため、医薬品を使用した場合には、( b )以外の反応が現れることがある。( b )以外の反応であっても、特段の不都合を生じないものであれば、通常、( c )として扱われることはないが、好ましくないものについては一般に( c )という。

	a	b	c
1	主作用	副作用	薬理作用
2	主作用	薬理作用	副作用
3	副作用	薬理作用	主作用
4	薬理作用	副作用	主作用
5	薬理作用	主作用	副作用

問5 医薬品の副作用に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の副作用は、「薬理作用による副作用」と「アレルギー（過敏反応）」に大別される。
- 2 一般用医薬品は、副作用の兆候が現れたときには基本的に使用を中止し、必要に応じて医師、薬剤師などに相談がなされるべきである。
- 3 一般用医薬品は、軽度な疾病に伴う症状の改善等を図るためのものであるため、重大な副作用は生じない。
- 4 一般用医薬品は、十分注意して適正に使用された場合であっても、副作用が生じることがある。

問6 医薬品の相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 相互作用を考えるには、同時に服用している医薬品のみを対象とすればよい。
- b かぜ薬やアレルギー用薬では、成分や作用が重複することが多いため、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。
- c 相互作用によって、医薬品の作用が増強したり、減弱したりする。
- d アルコールは、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることはない。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問7 次の表は、かぜの諸症状（のどの痛み、せき、たん、頭痛、発熱、悪寒、関節の痛み、筋肉の痛み）の緩和を効能、効果とする一般用かぜ薬（内服薬）の成分の一覧である。

3錠中	
アセトアミノフェン	300mg
グアヤコールスルホン酸カリウム	83.33mg
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	16mg

このかぜ薬の添付文書の記載内容に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人は、服用前に医師又は薬剤師に相談することとされている。
- b 5～6回服用しても症状がよくなる場合は、直ちに服用を中止し、この説明書を持って医師又は薬剤師に相談することとされている。
- c まれに下記の重篤な症状が起こることがある。その場合は直ちに医師の診療を受けることとされている。

間質性肺炎：空せき（たんを伴わないせき）を伴い、息切れ、呼吸困難、発熱等が現れる。（これらの症状は、かぜの諸症状と区別が難しいこともあり、空せき、発熱等の症状が悪化した場合にも、服用を中止するとともに医師の診療を受けること。）

- d 長期連用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問8 小児に一般用医薬品を使用する場合の注意事項に関する以下の記述うち、誤っているものはどれか。

- 1 一般的に乳幼児は、容態が変化した場合に、自分の体調を適切に伝えることが難しいため、医薬品使用後の状態を保護者等がよく観察することが重要である。
- 2 錠剤、カプセル剤等は服用時に喉<sup>のど</sup>につかえやすいので、5歳未満の幼児に使用される医薬品では、注意するよう添付文書に記載されている。
- 3 乳児向けの用法用量が設定されている医薬品であっても、乳児は医薬品の影響を受けやすく、一般用医薬品の使用の適否が見極めにくいいため、基本的には医師の診療を受けることが優先される。
- 4 小児へ医薬品を与える場合は、成人用の医薬品の量を減らして与える必要がある。

問9 小児の医薬品使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において、小児とは7歳未満の年齢区分をいう。
- b 小児は、肝臓や腎臓が未発達のため、医薬品の成分の代謝・排泄に時間がかかり、作用が強すぎたり、副作用が強く出ることがある。
- c 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。
- d 小児は、循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

問 10 高齢者の医薬品使用に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 高齢者の生理機能の衰えの度合いには個人差が大きいため、年齢のみから医薬品によるリスクを判断することは難しい。
- 2 高齢者が一般用医薬品を定められた用量の下限で使用してもなお作用が強すぎる等の問題が生じる場合は、それ以下に量を減らして服用を続けることが望ましい。
- 3 高齢者は、基礎疾患を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって、その症状が悪化する場合がある。
- 4 高齢者では、<sup>えん</sup>嚥下障害がある場合があり、内服薬を使用する際、誤<sup>えん</sup>嚥（食べ物等が誤って気管に入り込むこと）を誘発しやすくなるので注意が必要である。

問 11 授乳婦、妊婦の医薬品使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 母体が医薬品を使用した場合、胎盤にある胎盤関門によって医薬品成分の胎児への移行が完全に防御される。
- b 便秘薬の中には、配合成分や用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- c ビタミンAは、妊婦に不足しやすいビタミンなので、妊娠中は積極的に摂取するようにした方がよい。
- d 授乳婦が医薬品を服用していても、肝臓で代謝されるため、医薬品の成分が乳汁中に移行することはなく、乳幼児に母乳を与えても差し支えない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

問12 医療機関で治療を受けている人等の一般用医薬品使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与える要因となることがある。
- b 一般用医薬品を使用することによってその症状が悪化したり、治療が妨げられることもある。
- c 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人については、登録販売者において一般用医薬品との併用の可否を判断することは困難なことが多く、その薬剤を処方した医師若しくは歯科医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する必要がある。
- d 医療機関での治療は特に受けていない場合であっても、一般用医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるおそれがある等、注意が必要なものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問13 子どもと高齢者のおおよその目安と年齢区分に関する以下の記述のうち、( )の中に入れるべき数字の正しい組み合わせはどれか。

- 乳児：( a ) 歳未満
- 幼児：( b ) 歳未満
- 小児：( c ) 歳未満
- 高齢者：( d ) 歳以上

	a	b	c	d
1	1	5	7	65
2	3	7	10	60
3	3	5	12	60
4	1	7	15	65
5	5	7	15	75

問14 プラセボ効果に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることがプラセボ効果という。
- b 医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）等が関与して生じると考えられている。
- c 通常、医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるもののほか、プラセボ効果によるものも含まれている。
- d プラセボ効果によってもたらされる反応や変化にも、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）とがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問 15 医薬品の品質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、適切な保管や陳列がなされていても、経時変化により品質の劣化が生じる。
- b 医薬品の使用期限とは、未開封状態で適正な条件で保管された場合に品質が保持される期限である。
- c 医薬品の有効成分は、高温や多湿、光によって品質の劣化を起こすことがある。
- d 医薬品の添加物成分は、高温や多湿、光によって品質の劣化を起こすことはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

問 16 一般用医薬品の役割に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 軽度な疾病に伴う症状の改善
- b 生活の質（QOL）の改善、向上
- c 健康の維持、増進
- d 衛生害虫の防除

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問 17 薬事法第 25 条に規定される一般用医薬品の定義について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が（ a ）ものであって、（ b ）その他の医薬関係者から提供された情報に基づく（ c ）の選択により使用されることが目的とされているもの。

	a	b	c
1	緩和な	登録販売者	需要者
2	緩和な	薬剤師	消費者
3	著しくない	医師	消費者
4	著しくない	薬剤師	需要者
5	緩和な	登録販売者	消費者

問 18 サリドマイドに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 サリドマイド製剤は、1957年に西ドイツ（当時）で販売が開始され、我が国においても催眠鎮静剤として販売された。
- 2 サリドマイド訴訟とは、サリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- 3 サリドマイド製剤は、1961年11月、西ドイツのレント博士がその服用による催奇形性について警告を発し、日本国内ではその後、速やかに販売停止及び回収措置がとられた。
- 4 血管新生を妨げる作用は、サリドマイドの光学異性体のうち、S体のみが有する作用であり、R体にはなく、また、鎮静作用はR体のみが有するとされている。

問 19 スモンに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 スモン訴訟とはキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 キノホルム製剤は、1924年から整腸剤として販売されていたが、我が国では、1970年8月になって、スモンの原因はキノホルムであるとの説が発表され、同年9月に販売が停止された。
- 3 スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。麻痺は上半身にも広がる場合があり、ときに視覚障害から失明に至ることもある。
- 4 キノホルム製剤については、一般用医薬品として販売されていた製品はない。

問20 薬害とその後講じられた対策に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、医薬品副作用報告制度が1979年に創設された。
- 2 スモン訴訟を契機として、スモン患者に対しては、治療研究施設の整備、重症患者に対する介護事業等が行われている。
- 3 ヒト免疫不全ウイルス（HIV）、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の感染被害を契機として、生物由来製品感染等被害救済制度が創設された。
- 4 HIVの感染被害を契機として、献血時の問診の充実が図られた。

問 21 かぜに関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 発熱や頭痛を伴って、悪心・嘔吐<sup>おう</sup>、下痢等の消化器症状が現れることがあり、これらは典型的なかぜの症状である。
- b 原因のほとんどは細菌感染であるが、その他、ウイルス感染や、まれに冷気や乾燥、アレルギーのような非感染性の要因による場合もある。
- c かぜは単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群という。
- d 関節リウマチやリウマチ熱は、発熱や関節痛など、かぜとよく似た症状を示すことがある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 22 次の漢方処方製剤のうち、通常かぜの症状に用いられないものはどれか。

- 1 香蘇散<sup>こうそさん</sup>
- 2 麻黄湯<sup>まおうとう</sup>
- 3 小柴胡湯<sup>しょうさいことう</sup>
- 4 小青竜湯<sup>しょうせいりゅうとう</sup>
- 5 小建中湯<sup>しょうけんちゅうとう</sup>

問 23 解熱鎮痛成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリン、カフェイン、エテンザミドの組み合わせは、それぞれの頭文字から「ACE処方」と呼ばれる。
- b アスピリンは医療用医薬品として、血栓ができやすい人に対する血栓予防薬の成分としても用いられている。
- c アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比べて胃腸障害が起きやすいとされ、アスピリンアルミニウムとして胃粘膜への刺激を減弱させる等して、胃腸への影響の軽減を図っている製品もある。
- d アスピリン、サザピリン、イソプロピルアンチピリンを総称してピリン系解熱鎮痛成分という。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 24 かぜ薬で使用される医薬品の成分とその目的とする作用の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

- 1 塩酸ブロムヘキシン———抗炎症作用
- 2 塩化リゾチーム———鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を広げる作用
- 3 ベラドンナ総アルカロイド——解熱鎮痛作用
- 4 イブプロフェン———くしゃみや鼻汁を抑える作用
- 5 ノスカピン———鎮咳<sup>がい</sup>作用

問 25 リン酸コデインに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 作用本体であるコデインは、エフェドリンと同じ基本構造を持っている。
- b 長期連用や大量摂取によって倦怠感や虚脱感、多幸感が現れることがある。
- c 内服液剤では、本来の目的以外の意図で服用する不適正な使用がなされることがある。
- d 胃腸の運動を亢進させる作用があり、副作用として下痢が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 26 次の表は、ある配合薬に含まれている成分の一覧である。

4錠中		
塩酸メクリジン		50mg
アリルイソプロピルアセチル尿素		30mg
無水カフェイン		40mg
臭化水素酸スコポラミン		0.3mg

この配合薬の効能・効果として考えられる最も適当なものはどれか。

- 1 腰痛、筋肉痛の緩和
- 2 眠気の防止
- 3 一時的な睡眠障害の緩和
- 4 胃痛、腹痛の緩和
- 5 乗物酔いによる症状の予防および緩和

問 27 以下の口腔咽喉薬、うがい薬（含嗽薬）に関する配合成分とその副作用に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお（ ）の同じ記号には同じ字句が入る。

（ a ）系殺菌消毒成分が口腔内に使用される場合、結果的に（ a ）の摂取につながり、（ b ）におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。（ c ）や橋本病などの（ b ）疾患の診断を受けた人では、その治療に悪影響を生じるおそれがある。

	a	b	c
1	ヨウ素	甲状腺	バセドウ病
2	グリチルリチン酸	副腎皮質	バセドウ病
3	ヨウ素	副腎皮質	クローン病
4	ヨウ素	甲状腺	クローン病
5	グリチルリチン酸	副腎皮質	偽アルドステロン症

問 28 アセトアミノフェンに関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 小児の解熱に用いる坐薬には配合されない成分である。
- 2 解熱・鎮痛作用は末梢性作用によるものと考えられている。
- 3 サリチル酸系の解熱鎮痛成分である。
- 4 空腹時にも服用できる製品がある。
- 5 重篤な副作用に無菌性髄膜炎がある。

問 29 次の記述は、眠気を促す薬に関するものである。( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお( )の同じ記号には同じ字句が入る。

生体内の刺激伝達物質である( a )は脳の下部にある睡眠・覚醒に大きく関与する部位において、神経細胞を刺激して覚醒の維持・調節を行う働きを担っている。

脳内の( a )による刺激の発生が( b )と眠気が促される。( c )は抗( a )成分の中でも特にそうした中枢作用が強いとされる。

	a	b	c
1	ヒスタミン	抑えられる	塩酸ジフェンヒドラミン
2	ヒスタミン	亢進される	塩酸ジフェンヒドラミン
3	プロスタグランジン	抑えられる	ブロムワレリル尿素
4	プロスタグランジン	亢進される	ブロムワレリル尿素
5	ヒスタミン	抑えられる	ブロムワレリル尿素

問 30 精神神経に作用する薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児鎮静薬（生薬製剤・漢方処方製剤）は、夜泣き、乳吐きなどの症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良の改善を目的とする医薬品である。
- b 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的に不眠症状がある人や、不眠症の診断を受けている人も適用対象である。
- c 妊娠中にしばしば生ずる睡眠障害については、ホルモンのバランスや体形の変化等によるものであり、睡眠改善薬の適用対象ではない。
- d 睡眠改善薬の使用により、まれに眠気とは正反対の作用を生じて、神経過敏や興奮などの症状が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	誤	正

問 31 消化器系薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 制酸薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐き気等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。
- b 生薬成分であるオウバクやオウレンが配合された健胃薬は、苦みが強いいためオブラートで包んで服用するとよい。
- c 消化薬は、消化管の働きを活発にさせ内容物の流れをよくすることにより、食物の消化を促す医薬品である。
- d いわゆる総合胃腸薬は、様々な胃腸の症状に幅広く対応できるように、制酸、胃粘膜保護、健胃、消化、整腸、鎮痛鎮痙、消泡等それぞれの作用を目的とする成分を組み合わせた製品である。

1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

問 32 制酸成分に関する記述について、( ) 内に入れるべき字句として正しいものはどれか。なお ( ) 内にはすべて同じ字句が入る。

制酸成分のうち ( ) を含む成分については、透析療法を受けている人が長期間服用した場合には ( ) 脳症及び ( ) 骨症を引き起こしたとの報告があり、透析療法を受けている人では使用を避ける必要がある。

- 1 カルシウム    2 アルミニウム    3 ナトリウム    4 マグネシウム  
5 カリウム

問 33 止瀉成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 収斂成分を主体とする止瀉薬については、細菌性の下痢や食中毒の時に使用して腸の運動を鎮めると、かえって状態を悪化させるおそれがある。
- b タンニン酸アルブミンについて、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがあるため、卵アレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- c 塩酸ロペラミドは、食べ過ぎ、飲みすぎによる下痢、寝冷えによる下痢の他、食あたり、水あたりによる下痢にも適用される。
- d 次没食子酸ビスマス、次硝酸ビスマス等のビスマスを含む成分については、海外において長期連用した場合に精神神経症状（不安、記憶力減退、注意力低下、頭痛等）が現れたとの報告があり、1週間以上継続して使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 34 瀉下薬に関する記述のうち正しいものはどれか。

- 1 酸化マグネシウムは、小腸から吸収され大腸に分泌される粘液量を増加させることにより瀉下作用を現わす。
- 2 ヒマシ油は、急激で強い瀉下作用をもたらすことから、防虫剤や殺鼠剤を誤って飲み込んだ場合のような脂溶性の物質による中毒に対して効果がある。
- 3 マルツエキスは、高い糖濃度により腸管に水を集めることによって糞便のかさを増し、柔らかくすることによって排便しやすくする。
- 4 センナが配合された瀉下薬は、腸の急激な動きに刺激されて、流産、早産を誘発する恐れがあるため、妊婦には使用を避けることが望ましい。

問 35 次の漢方処方製剤のうち、胃の不調を改善する目的で用いられるものはどれか。

- 1 八味地黄丸 はちみじおうがん
- 2 六君子湯 りっくんしとう
- 3 麻子仁丸 ましにんがん
- 4 小青竜湯 しょうせいりゅうとう
- 5 葛根湯 かっこんとう

問 36 胃腸に作用する医薬品に含まれる成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸セトラキサートは、体内で代謝されてトラネキサム酸を生じるため、血栓を起こすおそれのある人は、事前に医師などに相談することが望ましい。
- b ウルソデオキシコール酸は、胎児毒性の可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。
- c 塩酸ピレンゼピンは、消化管の運動に影響を与えることにより、胃液の分泌を抑える作用を示すとされる。
- d ソファルコン、テプレノンは、まれに重篤な副作用として腎機能障害を生じることがある。

- 1 (a、b)
- 2 (a、c)
- 3 (b、d)
- 4 (c、d)

問 37 高コレステロール改善成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 大豆油不<sup>けん</sup>飽化物（ソイステロール）は、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待し用いられる。
- 2 ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされている。
- 3 リノール酸は、肝臓におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされており、胆<sup>のう</sup>嚢におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待し用いられる。
- 4 パンテチンは、肝臓におけるコレステロールの代謝を正常化する働きがあるとされ、高密度リポ<sup>たん</sup>蛋白質（HDL）の分解を促進し、また低密度リポ<sup>たん</sup>蛋白質（LDL）が形成される過程に働いて、LDLを増加させる効果を期待して用いられる。

問 38 循環器用薬に配合される成分とその目的に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a コウカ—————末梢の血行を促し、鬱<sup>うっ</sup>血を除く作用がある。
- b ユビデカレノン——心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示す。
- c ヘプロニカート——高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- d ルチン—————代謝されてニコチン酸が遊離し、その働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示す。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 39 貧血に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 鉄分の摂取不足が生じると、ただちに貧血症状（めまい、疲労、動悸<sup>き</sup>、息切れ、耳鳴り）が現れる。
- 2 鉄製剤を服用すると便が黒くなることがあるが、これは副作用により消化管から出血をしているためであり、ただちに使用をやめなければならない。
- 3 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。
- 4 亜鉛は、ヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。

問 40 浣腸薬<sup>かん</sup>に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 浣腸薬<sup>かん</sup>は、繰り返し使用すると直腸の感受性の低下が生じて効果が弱くなるので連用しないこととされている。
- b 炭酸水素ナトリウムを主薬とする浣腸薬<sup>かん</sup>は、直腸内で内容物を溶解して排便をうながす。
- c グリセリンが配合された浣腸薬<sup>かん</sup>では、排便時血圧低下を生じて立ちくらみの症状が現れることがある。
- d 注入剤を半量等使用した場合、残量を密封して冷所に保存すれば、感染のおそれがないので再利用できる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

問 41 外用痔疾用薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 痔周辺の知覚神経に作用して刺激の伝達を可逆的に遮断するために、局所麻酔成分である塩酸メチルエフェドリンが配合されている場合がある。
- b 痔による肛門部の炎症や痒みを和らげるステロイド性抗炎症成分として、酢酸ヒドロコルチゾンが配合されている場合がある。
- c 血管収縮作用による止血効果を期待して、アドレナリン作動成分の塩酸ジブカインが配合されている場合がある。
- d 痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として、殺菌消毒成分の塩酸クロールヘキシジンが配合されている場合がある。

- 1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

問 42 以下の記述に該当する泌尿器用薬として用いられる漢方処方製剤はどれか。

比較的体力があり、下腹部の筋肉が緊張する傾向がある人における、排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）の症状に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 おうれんげどくとう 黄連解毒湯      2 しょうふうさん 消風散      3 りゅうたんしゃかんと 竜胆瀉肝湯      4 ごしゃくさん 五積散  
5 とうきいんし 当帰飲子

問43 女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、カンゾウを含有するものはどれか。

- 1 うんけいとう 温経湯      2 うんせいいん 温清飲      3 けいしぶくりょうがん 桂枝茯苓丸      4 しもつとう 四物湯  
5 とうまじやくやくさん 当帰芍薬散

問 44 鼻炎用内服薬に配合されている成分のうち、交感神経を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげるアドレナリン作動成分はどれか。

- 1 塩酸ジフェンヒドラミン
- 2 塩化リゾチーム
- 3 塩酸プソイドエフェドリン
- 4 グリチルリチン酸二カリウム
- 5 ヨウ化イソプロパミド

問 45 鼻炎用点鼻薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 急性鼻炎又は副鼻腔炎による諸症状の緩和を目的として使用されるが、アレルギー性鼻炎には使用されない。
- b アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用すると、かえって鼻づまりを起こすことがある。
- c 全身作用を目的として抗ヒスタミン成分や抗炎症成分が配合される場合がある。
- d スプレー式鼻炎用点鼻薬は、噴霧後に鼻汁とともに逆流する場合があるので、使用前に鼻をよくかんでおく必要がある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 46 鼻に用いる薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸リドカインは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑えることにより、鼻アレルギー症状を緩和する。
- b 塩化ベンザルコニウムは、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止する。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎<sup>くう</sup>に対しては無効である。
- d 塩酸ナファゾリンは、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血<sup>は</sup>や腫れを和らげる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問 47 眼科用薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 洗眼液は、涙液成分を補うことを目的とするもので、目の疲れや乾き、コンタクトレンズ装着時の不快感等に用いられる。
- b 人工涙液は、結膜炎（はやり目）や麦粒腫<sup>しゅ</sup>（ものもらい）、眼瞼炎<sup>けん</sup>（まぶたのただれ）等に用いられる。
- c 点眼の際に容器の先端が眼瞼<sup>けん</sup>（まぶた）や睫毛<sup>しょう</sup>（まつげ）に触れないように注意しながら 1 滴ずつ正確に点眼する。
- d 点眼薬は、一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではない。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 48 眼科用薬に用いられる成分のうち、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する成分はどれか。

- 1 塩酸ジフェンヒドラミン
- 2 ヒドロキシプロピルメチルセルロース
- 3 アズレンスルホン酸ナトリウム
- 4 塩酸エフェドリン
- 5 メチル硫酸ネオスチグミン

問 49 殺菌消毒薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩化ベンザルコニウムは、石鹼との混合によって殺菌消毒効果が低下する。
- b オキシドールは、黄色ブドウ球菌や真菌に殺菌消毒作用を示す。
- c ヨードチンキは皮膚刺激性が強いので、粘膜や目の周りへの使用は避ける必要がある。
- d グルコン酸クロルヘキシジンは、一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 50 外皮用薬に用いる成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 尿素は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善する。
- b イオウは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- c 白色ワセリンは、角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。
- d サリチル酸は、頭皮の落屑（ふけ）を抑える効果を期待して、毛髪用薬に配合される場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 51 次の外皮用薬の配合成分のうち、殺菌消毒作用を示す成分の正しい組み合わせはどれか。

- a インドメタシン
- b リドカイン
- c アクリノール
- d 塩化ベンゼトニウム

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 52 外皮用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 硝酸ミコナゾールは、皮膚糸状菌の細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- b ウンデシレン酸は、患部をアルカリ性にするこゝで、皮膚糸状菌の発育を抑える
- c 硫酸フラジオマイシンは、細菌の蛋白質合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- d サルファ剤は、真菌のDNA合成を阻害することにより、抗真菌作用を示す。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

問 53 歯槽膿漏薬に用いる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

成 分	配合目的
a 銅クロロフィリンナトリウム	殺菌消毒
b カルバゾクロム	止血
c チモール	殺菌消毒
d フィトナジオン	組織修復

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 54 禁煙補助剤（咀嚼剤）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 噛むことにより、口腔内でニコチンが放出され、口腔粘膜から吸収されて循環血液中に移行する。
- b ニコチンは交感神経系を興奮させる作用を有するので、鎮咳去痰薬などのアドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を低下させるおそれがある。
- c 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- d 大量使用により禁煙達成が早くなる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 55 滋養強壮保健薬（医薬品及び医薬部外品）に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品として扱われる滋養強壮保健薬は、体調の不調を生じやすい状態や体質の改善、特定の栄養素の不足による症状の改善又は予防等を目的としている。
- 2 医薬部外品として扱われる滋養強壮保健薬の効能・効果の範囲は、神経痛、筋肉痛、関節痛、しみ・そばかす等のような特定部位の症状に限定されている。
- 3 医薬部外品として扱われる滋養強壮保健薬の配合成分や分量は、人体に対する作用が緩和なものに限られ、生薬成分としては、カシュウ、ゴオウ、ゴミシ、ジオウ、ロクジョウ等が配合される。
- 4 医薬品として扱われる滋養強壮保健薬は、多く摂取したほうが症状の改善が早まる。

問 56 滋養強壯保健薬に含まれるビタミン成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンAは、体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。
- b ビタミンDは、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- c ビタミンEは、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- d ビタミンB6は、蛋白質の代謝たんに関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に重要な栄養素である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問 57 漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 漢方の考え方として重要なものは、患者の証（体質及び症状）及び陰陽五行説いんようごぎょうである。
- b 漢方処方製剤の使用により、間質性肺炎のような重篤な副作用を起こすことはない。
- c 漢方処方製剤の用法用量においては、適用年齢の下限が設けられていないので生後1カ月の乳児にも安心して使用できる。
- d 患者の証に適さない漢方処方製剤を使用したために症状が悪化することがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 58 消毒薬に用いられる成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a クレゾール石鹼液は、ウイルスに対する殺菌消毒作用がある。
- b イソプロパノールは、微生物のDNA合成を阻害することにより殺菌消毒作用を示す。
- c トリクロロイソシアヌル酸は、プール等の大型設備の殺菌消毒に用いられる。
- d 次亜塩素酸ナトリウムは、皮膚刺激性が強いため、人体の消毒には用いられない。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

問 59 衛生害虫の防除に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ハエの防除の基本はウジの防除であり、ウジの防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤を使用する。
- b ゴキブリの防除に殺虫剤の燻蒸処理を一度行えば、ゴキブリの卵も含めて殺虫効果が十分に期待できる。
- c シラミの防除には、散髪や入浴、衣服の熱湯処理などの物理的方法以外にサラシ粉を配合したシャンプーも用いられる。
- d イヌやネコなどに寄生しているノミの防除には、ノミ取りシャンプーや忌避剤などが用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問 60 妊娠検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般的な妊娠検査薬の使用は、月経予定日が過ぎて概ね 1 週間目以降の検査が推奨されている。
- b 妊娠検査薬は、妊娠の早期判定の補助として尿中の hCG（ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン）の有無を調べるものであり、その結果をもって直ちに妊娠しているか否かを断定することはできない。
- c 尿中 hCG の検出反応は、hCG と特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため温度の影響を受けることはない。
- d 経口避妊薬や更年期障害治療薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても検査結果が陽性となることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤